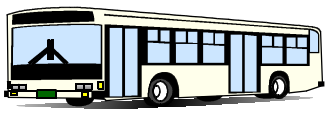
「市川地区・歴史を探るツアー」実施



轟木下　木村隆一

去る6月12日（土）、「市川地区・歴史を探るツアー」が「市川を調べる会」の主催・市川公民館の講座として開催されました。これは、市川の史跡・石碑等を巡るバスツアーとして実施され、参加者は地域の歴史や文化等について理解を深めることができました。　（午前9時ツアー開始、12時20分終了。51名参加、新聞記者も同乗）

〈見学箇所〉　①中川原・神明川原土地改良区事業全国受賞記念碑→②**藤田又右衛門**の**開墾記念碑**→③**又右衛門堰**と**頭首工**→④鈴木與兵衛氏旧宅と轟木伝説→⑤市川田んぼの苺栽培→⑥津波と防潮堤（奥入瀬川・五戸川）→⑦盛岡南部藩と八戸藩の藩境を示す**黒森塚**と市川ばらい→⑧**国史跡**である**長七谷地貝塚**→⑨桔梗野のはじまり→⑩陸奥市川駅・歴史と現状

参加した方々は、鎌倉時代の古文書に記されている鈴木與兵衛氏の旧宅に接し、その大きさ（八戸市で一番）と見事↗↘さに大変驚いておりました。また、幕末に市川前谷地を開拓した藤田又右衛門の業績（現在は、260町歩の美田）や又右衛門堰と、当時の石碑や大規模な頭首工を目の前にして感動しきり。誠に有意義なツアーだったと思っております。

【轟木下町内にある**鈴木與兵衛氏旧宅**】

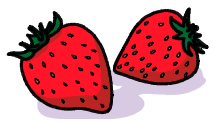
市川昔がたり・14

【苺（いちご）ざむらい】その後（2）

多賀台　**奈良孝次郎**

★〈いちご栽培の現状〉

いちご栽培の現状は、生産地域が八戸にとどまらず、農産物としてリンゴやナガイモのように農家のくらしを支える基幹品目としてとらえ、青森県としての取組みを進めている。そして、津軽地方を含めて青森県の春から夏にかけての冷涼な気候利用して、その名も**「夏秋（かしゅう）いちご」**と名づけてブランド化を進めている。その一環として八戸でも八戸広域農協としての取組みを進めている。



★〈いちご栽培の問題点〉

◇品種の改良⇒良い品種であっても、いちご栽培をくり返すうちに劣化が進むので、絶えず品種改良を求めて行かなければならない。

◇栽培上の工夫⇒冷涼な冬に対応してのハウス栽培だが、燃料費の高騰や受粉に利用するミツバチの減少からくる価格高の問題がある。

◇産地間競争⇒いちごはスイーツなどに利用されて年間を通して求められており、青森県の各地域だけでなく各県で栽培されているので、産地間競争がたいへんはげしい作物である。

上記の問題を抱えながら、生産活動の向上に現在も取り組んでいる。

（デーリー東北新聞、いちご栽培記事を参照した。）